

Japanese Utility Model Publication 7-22767

[Abstract]

[Object] To provide a protective device for preventing damage to a hood of a golf bag due to collision of club heads against the inner surface of the hood during transportation or handling of the golf bag.

[Structure] The protective device A includes a cylindrical member formed of a bag having an air inlet 2 and set between a hood 7 of a golf bag 6 and club heads. This bag comprises a plurality of compartments 1 separated by partitioning walls 3 formed with small-diameter through holes 3a. Air introduced into one of the compartments through the air inlet 2 is introduced into all of the compartments 1 through the holes 3a, keeping the respective compartment air pressures equal to each other. The holes 3a prevent air in any compartment from moving quickly to the adjacent compartments even when impulsive pressure is applied to the bag during handling of the golf bag.

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平7-22767

(43)公開日 平成7年(1995)4月25日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 3 B 55/00

識別記号

Z

B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平5-58338

(22)出願日 平成5年(1993)10月1日

(71)出願人 593198946

株式会社セラジバング

東京都大田区羽田1丁目19番5号

(72)考案者 安藤 博允

東京都大田区羽田1丁目19番5号 株式会

社セラジバング内

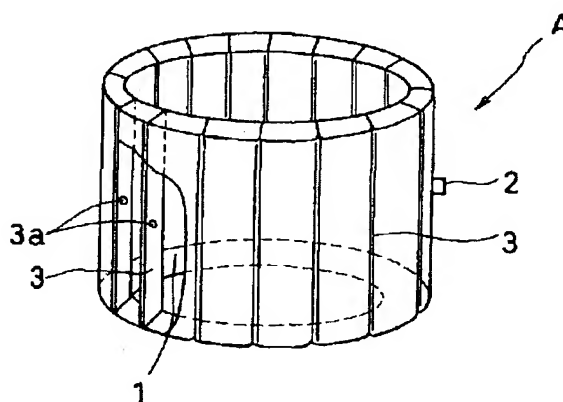
(74)代理人 弁理士 奈良 武

(54)【考案の名称】 フード内クラブプロテクション装置

(57)【要約】

【目的】 ゴルフバッグの輸送取扱中にクラブヘッドがフード内面に激突することによりフード部が破損することを防止するプロテクション装置の提供をする。

【構成】 プロテクション装置Aは空気封入口2を有する袋体にて円筒形を形成し、ゴルフバッグ6のフード7内面とクラブヘッドとの間にセットするものである。この袋体は複数の個室1にて形成するとともに、各個室1の間仕切3には小径の連通孔3aを設けて、空気封入口2から供給した空気を連通孔3aを介して各個室1に封入して等圧にするとともに、荷扱い時にクラブヘッドから袋体に衝撃の圧力が加えられても当該個室1の空気が隣接する個室1に急速に逃げないようにして個室1の空気圧が対応するように構成している。



- 1 個室
- 2 空気封入口
- 3 間仕切
- 3a 連通孔

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 クラブを収納および搬送するゴルフバッグにおいて、収納したクラブヘッドとフードの内面との間に空気を封入した袋体を装着することにより、輸送中の荷扱い時にクラブヘッドがフード内面に激突することを緩和することを特徴とするクラブプロテクション装置。

【請求項2】 袋体から成るプロテクション装置は、使用時に袋体中に空気を封入して所要の厚さの円筒形を形成することにより封入された空気圧にてクラブヘッドが 10  
フード内面に激突することを緩和し、不使用時には空気を抜いて袋体を収縮させてバッグのポケット等に収納することができるように構成したことを特徴とする請求項1記載のフード内クラブプロテクション装置。

【請求項3】 プロテクション装置の袋体は、その内部にて複数の個室を形成し、各個室を形成する間仕切には小径の連通孔を設けた、空気封入口から封入した空気が各個室に連通して等圧になるようにするとともに、クラブヘッドがフードの内面に激突する際の圧力が袋体の一部にかかっても当該個室の空気が隣接する個室に急速 20  
に逃げないようにすることを特徴とする請求項1記載のフード内クラブプロテクション装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施例1を示すフード内クラブプロテ\*

\* クション装置の一部破断斜視図。

【図2】 実施例1のフード内クラブプロテクション装置をバッグにセットした状態を示す要部を破断した側面図。

【図3】 本考案の実施例2を示すフード内クラブプロテクション装置の一部を破断した斜視図。

【図4】 本考案の実施例3を示すフード内クラブプロテクション装置の一部を破断した斜視図。

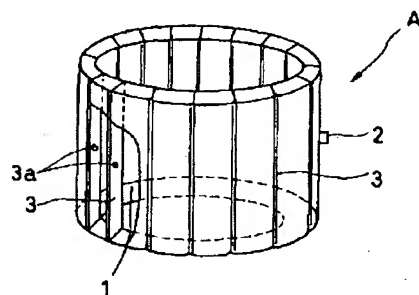
【図5】 本考案の実施例4を示すフード内クラブプロテクション装置の斜視図。

【図6】 実施例4を示すフード内クラブプロテクション装置をフード内面に組み込んだ状態を示す斜視図。

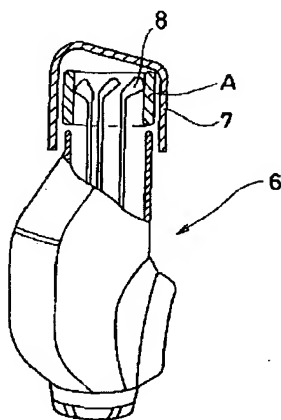
【符号の説明】

- 1 個室
- 2 空気封入口
- 3 間仕切
- 3a 連通孔
- 4 切れ目
- 5 マジックテープ
- 6 ゴルフバッグ
- 7 フード
- 8 クラブヘッド
- 9 チャック

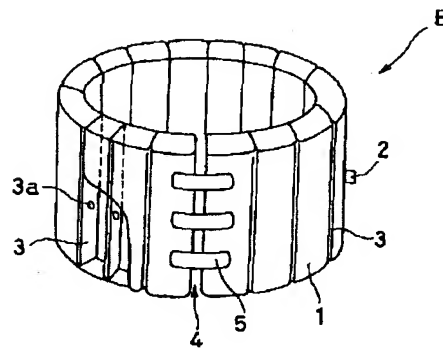
【図1】



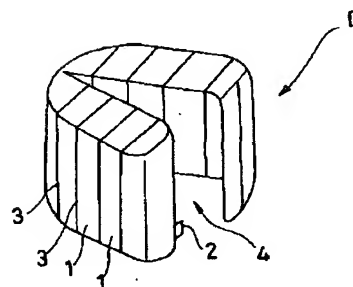
【図2】



【図3】



【図5】

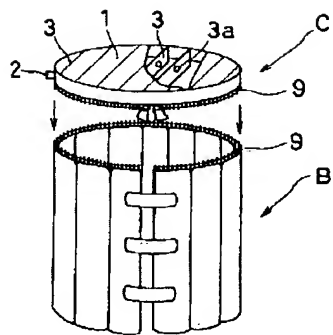


- 1 個室
- 2 空気封入口
- 3 間仕切
- 3a 連通孔

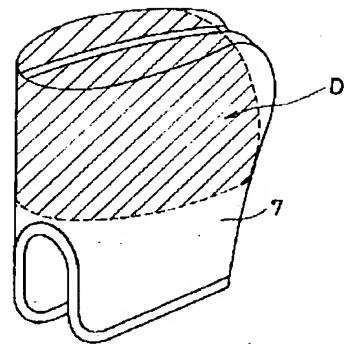
(3)

実開平7-22767

【図4】



【図6】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案はゴルフバッグに関し、特に輸送時の取扱でバッグのフード部にクラブヘッドが激突することによりフード部が破損することを防止する装置に関する。

**【0002】****【従来の技術】**

現在、ゴルフ熱が益々高まる一方で、ゴルファーは遠隔地のゴルフ場に出掛けることが多くなっている。このためゴルファーは事前に遠隔地のゴルフ場にゴルフバッグを送り届けることが一般的に行われている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

しかしながら、ゴルフバッグは輸送中に他の荷物とともに乱暴に扱われるために、バッグ中に収納した重いクラブヘッドはゴルフバッグの内側から他の荷物に激突することになる。この時にバッグのフード部は衝撃に耐えきれずに破損してしまうという問題がある。

**【0004】**

よって本考案は前記問題点に鑑みてなされたものであり、ゴルフバッグを輸送する際にフード部が破損しないようにするプロテクション装置の提供を目的とする。

**【0005】****【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するため、本考案はクラブを収納および搬送するゴルフバッグにおいて、収納したクラブヘッドとフードの内面との間に空気を封入した袋体を装着することにより、輸送中の荷扱い時にクラブヘッドがフード内面に激突することを緩和することを特徴とする。

**【0006】**

そして、袋体から成るプロテクション装置は、使用時には空気封入口から袋体に空気を封入して所要の厚さの円筒形を形成することによりクラブヘッドがフー

ド内面に激突することを緩和し、不使用時には空気を抜いて袋体を収縮させ、バッグのポケット等に収納することができるように構成した。

#### 【0007】

また、プロテクション装置の袋体は、その内部にて複数個の個室を形成するとともに、各個室を形成する間仕切には小径の連通孔を設けて、空気封入口から封入した空気が各個室に連通して等圧になるようにするとともに、クラブヘッドが激突した際に当該個室の空気が隣接する個室に急速に逃げないように構成している。

#### 【0008】

##### 【作用】

本考案によれば、フード内に袋体からなるクラブプロテクション装置を設けることにより、フードとクラブヘッドとの接触を緩和してフードの破損を防止することができる。

#### 【0009】

##### 【実施例】

以下、本考案の実施例を図面とともに説明する。なお、各実施例において共通の構成部分については共通の符号を付してその説明を省略する。

#### 【0010】

##### 【実施例1】

図1および図2は本考案の実施例1を示し、図1はフード内プロテクション装置の一部を断面にした斜視図、図2はプロテクション装置をフード内に取り付けた状態を示す要部を断面にした側面図である。

#### 【0011】

図1に示すようにフード内プロテクション装置Aは袋体にて円筒形を形成し、袋体には、その内部にて複数個の個室1を形成するするために間仕切3を設けるとともに、各間仕切3には連通孔3aを穿設してプロテクション装置Aの外面の1か所に設けた空気封入口2から供給した空気を連通孔3aを経てそれぞれの個室1に送り込んで各個室1を等圧にするとともに、連通孔3aはクラブヘッド8の激突による衝撃的圧力を受けても当該個室1の空気が隣接した個室1に急速

に逃げない程度の必要最小限の径に構成したものである。なお、空気封入口2は空気を封入した後、空気が抜けを制止することができる構造になっている（図示せず）。

#### 【0012】

この構成のフード内プロテクション装置Aに空気を封入した後、図2に示すようにゴルフバッグ6に収納したクラブヘッド8全体の外側にプロテクション装置Aをセットし、さらに、フード7をプロテクションAの外側から被せて取り付ける。

#### 【0013】

このようにフード内プロテクション装置Aをセットした状態でバッグ6を遠隔地のゴルフ場に宅急便等で輸送した場合に衝撃的な荷扱いをされることにより、バッグ6内でクラブヘッド8がフード7内面に激突しようとしても、プロテクション装置Aの袋体1が介在していて、その袋体を構成する複数の個室1の空圧がクラブヘッド8からの衝撃的な圧力に対応するので袋体1自体の内壁と外壁相互間が接触することがない。従って、クラブヘッド8がフード7内面に激突することがない。

#### 【0014】

なお、間仕切3の設け方として、袋体の円筒形に沿った方向に構成するように図示しているが、間仕切の方法はこれに限定しない。また空気封入口2は1か所に限定しない。

#### 【0015】

##### 【実施例2】

図3は本考案の実施例2を示す。本実施例におけるプロテクション装置Bは、前記実施例1における円筒形プロテクション装置Aの円筒面の一部を円筒の軸方向に切り開いて切り目4を設け、プロテクション装置Bを左右に開くことができるようにしたとともに、切り目4部分を結合させるマジックテープ5を設けたことを異にするものである。

#### 【0016】

これにより、プロテクション装置Bに空気を封入して使用する際に、その切り

目4を開いてクラブ8全体の外側から包み込むようにセットし、マジックテープ5にて切り目4を閉じることによりプロテクション装置Aと同様に円筒形に保つことができる。即ち、この切り目4を設けたことによりバッグ6にセットすることを容易したもので、その他の作用効果は実施例1と同様に奏するのでその説明を省略する。

#### 【0017】

##### 【実施例3】

図4は本考案の実施例3を示す。本実施例においては実施例1または2における円筒状のプロテクション装置AまたはBの上部に袋体から成る円板状の蓋を形成するプロテクション装置Cを設けたことを異にするものである。プロテクション装置Cはプロテクション装置Bと同様に間仕切3により複数個の個室1を形成し、各間仕切3には連通孔3aを設けて、1か所の空気封入口2から供給した空気を連通孔3aを経て各個室1に封入することができるようにしてある。

#### 【0018】

また、プロテクション装置Cをプロテクション装置AまたはBと一体に結合させるためにそれぞれの結合部分にチャック9を設けている。

本実施例の場合は、実施例1及び2における円筒形に形成したプロテクション装置AまたはBにおける側面方向の衝撃の緩和と同時に上面方向に対する衝撃も緩和することができる。

#### 【0019】

##### 【実施例4】

図5及び図6は本考案の実施例4を示す。本実施例におけるプロテクション装置Dは図5に示すように、フード7内の側面及び上面を一体的に保護するためにフード7内面の形状にそって取り付けられるように構成した袋体であり、図6に示すようにフード7内面に組み込んで（点線で示した部分）固定するものである。

#### 【0020】

この袋体の構成は図5に示すように、袋体の側面及び上面共に間仕切3にて複数個の個室1を形成し、各間仕切3には小径の連通孔（図示せず）を設けて、空



気封入口2から供給した空気を連通孔を経て各個室に封入することができるように構成するとともに、切れ目4を設けてフード7とともに袋体の開閉を可能にしたものである。

【0021】

本実施例における作用効果は実施例3の場合と同様であるのでその説明を省略する。

【0022】

以上、実施例1から3の場合のプロテクション装置A、BまたはCは取り外し自由になっているので、プレーをする際にプロテクション装置A、BまたはCが邪魔であれば取り外して空気を抜き、縮小させてバッグ6のポケット等に入れておけばよい。また実施例4の場合はフード7内面に常に組み込まれているので、使用時には空気を封入し、不使用時には空気を抜いておくだけで、プロテクションDそのものをいちいち取り付け、取り外しする必要がない。

【0023】

また、本考案のプロテクション装置A、B、CまたはDにおける袋体は、間仕切りに連通孔を穿設しないで各個室を完全に独立させ、それぞれの個室毎に空気封入口を設けても良いし、個室を2～3個毎のグループ内で連通孔を設け、各グループ毎に空気封入口を設けても良い。

【0024】

【考案の効果】

本考案のフード内クラブプロテクション装置によれば、プロテクション装置をクラブヘッドとフードとの間にセットすることにより、プロテクション装置内部の空気圧にてクラブヘッドがフードの内面に衝撃的に接触することを緩和することができる。